

平成 27 年 2 月 2 日
在ポルトガル日本国大使館

東博史大使からのメッセージ

今月は、安倍総理のポルトガル訪問のフォローアップの一環として、両国間の「学術・研究交流の活性化」の観点から、1月18日から22日、リスボン近郊のエストリルで開催された国際会議「MEMS(Micro Electro Mechanical System)2015」に出席された日本の大学、研究機関、民間企業の研究者約30名の方々との意見交換について御紹介致します。

この国際会議「MEMS 2015」は、民間の IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc)主催で、半導体回路の微細な加工法を利用して、極微の機械構造をつくる研究に関して、世界で最も権威のある国際会議のひとつです。1987年11月に米国で初めて開催され、1999年から米国、アジア、ヨーロッパの持ち回りで毎年1月頃に開催されています。毎回600名程度の学者が参加しており、300-400件の論文が発表されるそうです。ポルトガルでの開催は初めてとのことで、MEMS は、ロボット、携帯電話等通信機器、プロジェクター、圧力センサーや医療関連機器等我々の生活の身近な機器等に応用されているようで、我が国の技術は、世界でもトップクラスの水準に達しているとのことです。

このように、世界最先端の技術・テクノロジーに精通したこれだけ多数の日本の研究者がポルトガルに来られることは極めて稀であり、私は、この機会に日本人研究者との懇談をお願いしました。

その際、私からは、「(1)昨年5月の日・ポルトガル首脳会談「共同コミュニケ」において、両国間の大学及び施設との間で学術的交流の促進に向けて協力していくことが合意された。(2)当国の各大学、研究機関等から研究開発や起業支援のため、日本の大学、企業との協力関係構築の要望が寄せられている。(3)また、昨年7月、我が国はポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)にオブザーバー加盟したところ、CPLP 諸国での研究協力の期待も高まっている。(4)更に、本年第一四半期にパソス・コエリョ首相の訪日が検討されており、その際、先方の関心事項の一つとして、「高齢者支援産業に関する研究所、大学、日本企業等」の視察の要望が来ている」旨説明しました。

これに対し、各研究者からは、「(1)日・ポルトガル間には歴史的に長い良好な関係があるにもかかわらず、今まで、大学、研究機関間の交流実績がほとんどなかったのは不思議なくらいである。これまでは、両国間では、留学生や個人的な研究者間の交流に留まっているため、今後は、大学間、研究機関間の研究交流を検討していきたい。(2)我が国のグローバル人材を育成するための取り組みとして、文部科学省の「トビタテ留学 JAPAN」がスタートしているほか、学術交流に資する制度として EU の枠組みである「ホライズン 2020」があり、これらを活用して両国間の学

術交流を活発化したい。(3)医療分野、産業分野等で、両国間の研究機関・企業間の研究・起業に関する知見・ノウハウを CPLP 諸国で活かす可能性も十分あると考える。」との御意見を頂戴しました。

また、「高齢者支援産業に関する研究所、大学、日本企業等」についても、各研究者から、「高齢化社会に対応するためのロボットの研究」、「予防医療、先端医療の領域における産学連携によるロボットサポート等の研究開発」、「センサー技術を生かして簡単に自分の健康状態を知るための医療機器や健康管理サービスの提供の研究」等がある旨御紹介があり、パッソス・キューリオ首相の訪日に向けて有益な示唆を頂戴しました。

今後、パッソス・キューリオ首相の訪日の機会に、最先端の技術・テクノロジーを含め両国間の「学術・研究交流」の活性化を図りたいと考えております。

上記のとおり、これから、パッソス・キューリオ首相の訪日に向けて、その準備が本格化しますが、皆様の御理解と御支援・御協力を引き続きお願い申し上げます。

また、寒い日々が続いておりますので、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお祈り申し上げます。